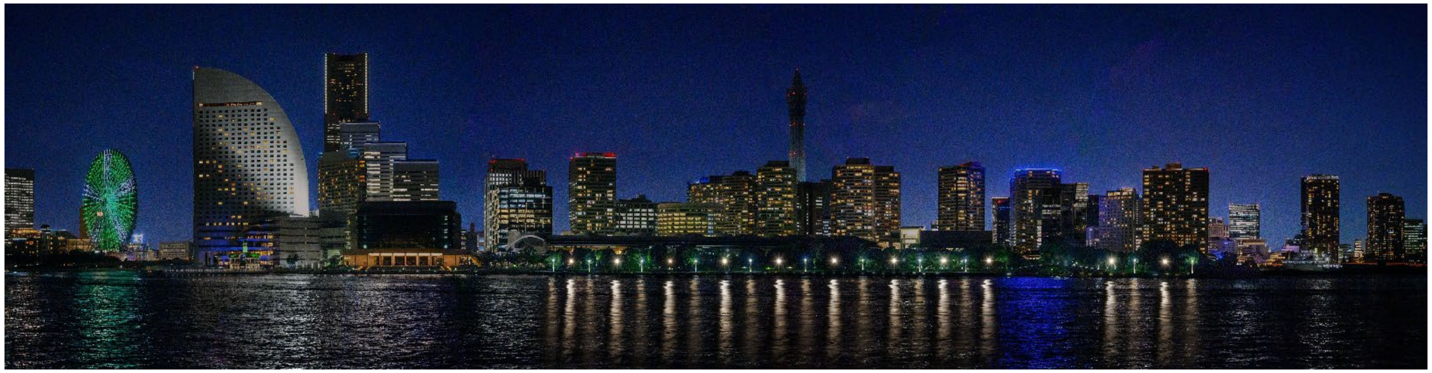
5つのエリアのつながりの強化

照明

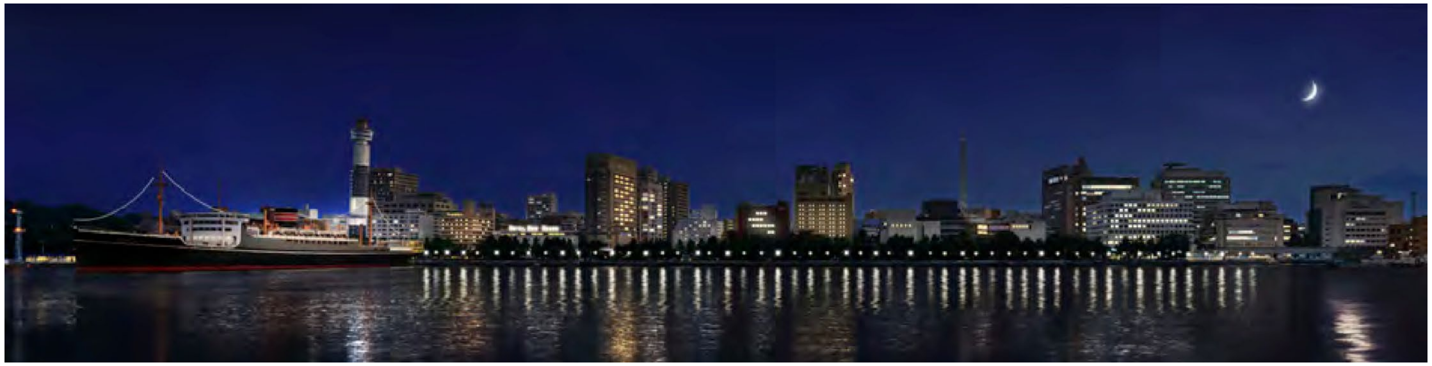
世界の人々を惹きつける夜間景観を形成していくため、「海に映る光」、「場所にあった光」、「特別な光」により、横浜ならではの夜景を更に磨き上げていきます。

海に映る光

○水面に映る光を一体的につなぎ、水際線の輪郭を際立たせます。
○海上から見た時の水際線のシルエットを浮かび上がらせ、美しい水景をつくり出します。



臨港パーク



山下公園

※パース画像については、整備イメージとなりますので、仕様やデザイン、位置等は今後変更となる場合があります。

2

場所にあった光

○エリアの特性に合わせた光の変化をデザインし、滞在を楽しむとともに、移動しながら変化を楽しめる光環境を目指します。
○光を抑えて夜景を眺める場所もつくり、周辺の夜の景観を楽しめるようにします。
○まちへの動線との交点や曲がり角などに光のアクセントとなる演出照明を配置し、次の動線への動きを誘います。

5つのエリアの特性に合わせた光

①臨港パーク

みなとみらい地区の海へ向かう軸線に採用されている照明を活かすほか、足元を優しく照らすとともに、周辺の夜間景観を楽しめる視点場として、落ち着いた光環境を指します。

②ハンマーヘッド周辺

歴史的資源であるハンマーヘッドクレーンを象徴的に演出するため、新港パーク等を含む周辺は落ち着きのある夜間景観の形成を推進するとともに、臨港パークからのつながりが感じられる照明とします。

③赤レンガパーク

地区のシンボルである赤レンガ倉庫の雰囲気をエリア全体で感じられるように、温かみのある光で演出します。

④象の鼻パーク

開港の地である象の鼻パークはシンボル感が感じられる照明計画とします。また、臨港線プロムナードは水際線の中でも高いところから海を望める場所にあるため、周辺の夜間景観を楽しめるよう落ち着いた空間にしつつ、歩行者も楽しめるような光環境をつくります。

⑤山下公園

夜間も公園利用者が安心できる落ち着いた光環境をつくるとともに、特別な時間には海からの見え方も大切にし、ナイトタイムを楽しめるような照明とします。

周辺の夜景を楽しみやすい環境

汽車道

汽車道は水面に浮かぶ特徴的な歩行者空間となっています。複数ある内水面への映り込みを意識した光環境を目指します。

光のアクセント

臨港パーク（国立大ホール前の曲がり角）

水際線のつながりに気づくきっかけとして光のアクセントを配置し、夜景と非日常感を楽しみながら次のエリアへの期待感を高め、自然な回遊を促します。

3

特別な光

○水際線全体の照明が一斉にカラーライティングすることにより、記憶に残る特別な光の演出を目指します。
○光の演出は、「日常の『特別な時間』」と「１年の中でも『特別な日』」という二つの視点で行います。

日常

時間帯に応じて一斉にカラーライティングをすることで、
時の移ろいを感じ、楽しめる仕掛けづくりを行います。

→

日常の『特別な時間』　（一斉カラーライティング）

魅力スポットの紹介

首都圏で初めて
「日本新三大夜景都市」に選出

2024年、横浜市は「日本新三大夜景都市」に首都圏で初めて認定され、国際的な観光都市としての存在感を更に高めています。

この背景には、夜景そのものの美しさに加えて、国内最大級のイルミネーションイベント「ヨルノヨ」の存在があります。中でも注目を集めているのが、メインコンテンツの「ハイライト・オブ・ヨコハマ」です。都心臨海部を舞台に、官民が連携して創り上げる光と音楽が連動するスペクタクルショーは、横浜ならではの魅力を体感できる特別な演出として、多くの来街者から高い評価を得ています。

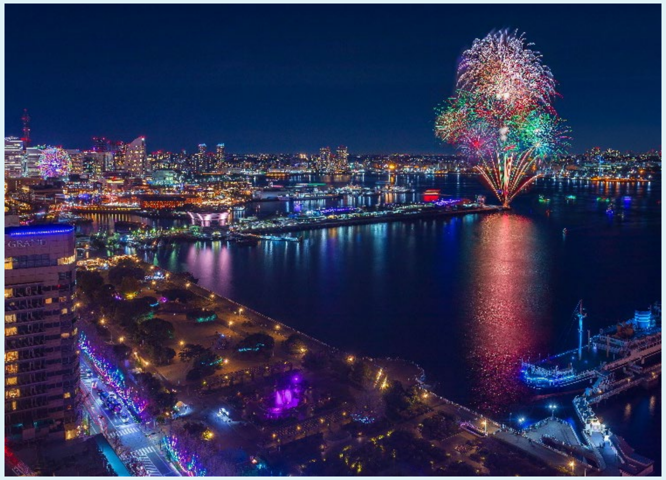
2024年には、横浜DeNAベイスターズの優勝を祝う「ブルーライトアップ」を実施し、街全体が祝賀ムードに包まれ、野球ファンのみならず多くの来街者に特別な体験を提供しました。

また、花火やIPコンテンツとの連携等による多様な演出を展開することで、横浜に新たなにぎわいを生み出し、観光消費の拡大にもつなげていきます。

こうした取組と水際線のまちづくりを連動させ、光の街としての存在感を高めていきます。

１年の中でも『特別な日』（一斉カラーライティング）

横浜DeNAベイスターズ日本一 優勝パレード2024連動企画



横浜ナイトフラワーズとの連携

YOKOHAMA GO GREEN

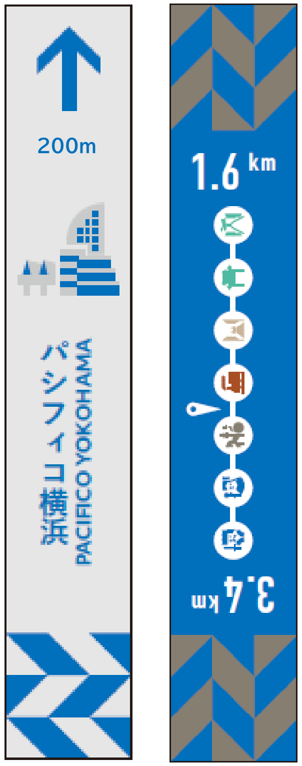
5つのエリアのつながりの強化

水際線 ルートサイン

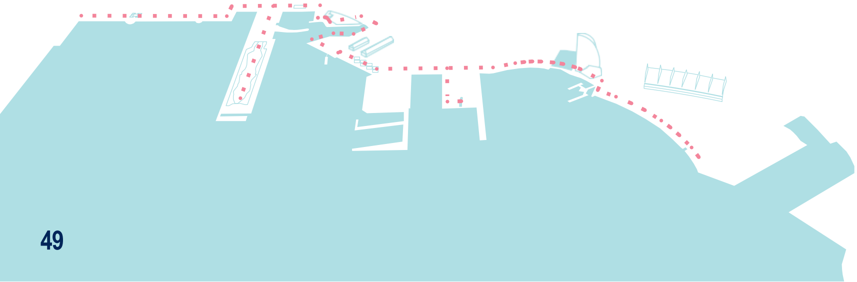
水際線の連続性やリズムを生み出し、
楽しみながら移動できるように、
「水際線ルートサイン」を設置します。

ナビゲーション

現在位置や近隣施設への距離等を伝えるサイン



※イメージ

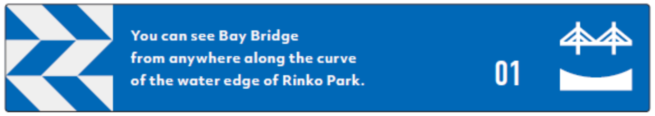


ビューポイント

写真スポットや視点場を伝えるサイン

※イメージ

インフォメーション

エリアの魅力などを伝えるサイン

※イメージ